

令和7年度

# 幼稚園だより 7月号



文京区立千駄木幼稚園

## 共に感じる

園長 篠澤 恵理

千駄木幼稚園の園庭には、モミジ、イチョウ、エノキなどの様々な樹木があります。外気温が高い日でも、木陰は涼しく遊べる恵まれた自然環境です。

以前の誕生会で、園長の話の時に、イチョウやモミジの若葉を見せたことがありました。そのことを子どもたちが覚えていて、小さな葉を見つけては、「赤ちゃんがいたよ」と伝えに来る姿も見られます。また、登園の挨拶をするとすぐに、ダンゴムシのいるところを目指して駆け寄る子もいます。同じ環境にいても、子どもたちの興味や関心の向け方は様々です。

今年度は、ミニトマト・インゲン豆・キュウリ・トマト・ナス・ピーマン・ポップコーンなど、学年毎に様々な夏野菜を植えました。子どもたちは、野菜の花の下に小さな実を見付けたり実を触ってみたりして、ワクワクと心を躍らせています。

先日は、ジャガイモを収穫した際に10ずつ並べて数えたところ、234個あることが分かりました。ジャガイモの大きさは、大小様々でしたので、「大きい選手権」と題して、一番大きいジャガイモを見付けようと、量りにのせてみました。重さを比べてみると、見た目よりも小さいことがあり、首をかしげる子もいました。実際に手に取って触れながら、数や大きさ・重さ・形などの違いを感じる機会となりました。

いつも通る道にも、身近な自然がたくさんあります。子どもが立ち止まると、大人は先に進むことを優先しがちですが、子どもが心を動かしていることを一緒に面白がってみると、興味や関心が広がります。風、光、影、水たまり、雲の動き、月の満ち欠け等、様々な自然に目を向けるきっかけもあるとよいですね。質問をされたときに、正しく答えようとするよりも、「こうなるかな」と思い巡らしたり、「きっとこうだ」と気付いたりするなど、子どもたちの興味や関心に寄り添い、不思議さや驚きを共に感じる事が大切です。

子どもたちが、自分で見付けたことは心に残り、次第に知識として身に付いたり、感性が豊かになったりします。そして、何度も繰り返していくうちに、物事を予測したり仮説を立てたりすることにもつながります。「もっと知りたい」という気持ちが、「学び」となっていくように願っています。今後も幼稚園では、子どもたちが「考えたり試したりすることは楽しい」と思う直接体験や感動体験を積み重ねていけるように、自然環境を整えてまいります。



「ジャガイモの収穫」

「大きい選手権」